

令和元(2019)年度決算 財務の概要

①貸借対照表の状況

- ・令和元(2019)年度末の総資産は18,681,112千円(前年度比で280,167千円の減少)、総負債は625,975千円(前年度比で9,926千円の減少)となり、その結果、純資産は18,055,136千円(前年度比で270,241千円の減少)となった。
- ・有形固定資産については、施設・設備の更新等で62,201千円増加したが、減価償却額および固定処分差額の合計で311,132千円計上したことにより、全体として248,930千円の減少となった。
- ・基本金については、第1号基本金の49,423千円の繰入を行ったことにより、本年度末の基本金残高は26,596,484千円、未組入高は20,572千円となった。

②収支計算書の状況

(事業活動収支)

- ・本年度の事業活動収入は1,512,307千円となり、前年度比で72,259千円の減少となった。主な内容は、雑収入が前年度比で74,500千円減少したことによるもの(減少の要因は、平成31年3月で学部廃止した造形芸術学部専任教員に係る私大退職金財団交付金収入)である。
- ・本年度の事業活動支出は1,782,548千円となり、前年度比で300,720千円の減少となった。増加項目と減少項目によって支出全体は構成されるが、減少した内容は人件費252,680千円、教育研究経費212,929千円が前年度比でそれぞれ減少したことによるもの(減少の要因は、平成31年3月で学部廃止した造形芸術学部に係るもの)である。

なお、管理経費は造形芸術学部の学部廃止により宝塚キャンパス維持経費の大半が教育研究経費から付け替わったことにより前年度比で162,744千円増加している。

以上の結果、基本金組入前当年度収支差額は270,241千円の支出超過(前年度は498,702千円の支出超過)、当年度収支差額は319,664千円の支出超過(前年度は567,023千円の支出超過)となり、前年度比で支出超過のマイナス額が大幅に改善されることとなった。

(資金収支)

- ・本年度の資金収入(繰越支払資金除く)は1,612,004千円となり、前年度比で44,531千円の収入増となった(前年度は1,567,473千円)。

増加項目と減少項目によって収入全体は構成されるが、増加した主な内容は、学生生徒等納付金収入25,630千円、補助金収入5,064千円、その他の収入66,727千円が前年度比でそれぞれ増加したことによるものである。

また、本年度決算においては、資金収入調整勘定(前年度決算との調整項目)によって前年度比で50,815千円の調整が少なくなされている。

- ・本年度の資金支出（繰越支払資金除く）は1,595,064千円となり前年度比で261,781千円の支出減となった（前年度は1,856,845千円）。

増加項目と減少項目によって支出全体は構成されるが、減少した主な内容は、人件費支出249,593千円、教育研究経費支出105,087千円、施設関係支出および設備関係支出の合計43,098千円が前年度比でそれぞれ減少したことによるものである。また、本年度決算においては、資金支出調整勘定（前年度決算との調整項目）によって前年度比で47,896千円の調整が少なくなされている。

以上の結果、当年度の資金収支差額は16,939千円の収入超過（前年度は289,372千円の支出超過）となり、翌年度繰越支払資金は1,579,985千円、前年度比で16,939千円の増加となった。

（活動区分資金収支）

本業である教育活動による資金収支差額は、プラス95,993千円となり、前年比で343,709千円のプラスの改善となった（前年度はマイナス247,715千円）。改善の要因は、平成31(2019)年3月で学部廃止した造形芸術学部に係るものである。